

La Informilo de Nagoja Esperanto-Centro

センター通信 第301号 2021年8月9日発行

発行：名古屋エスペラントセンター Nagoja Esperanto-Centro

461-0004 名古屋市東区葵一丁目26-10ユニブル新栄301号

公式サイト <http://nagoja-esperanto.a.la9.jp/>

Facebookページ <https://www.facebook.com/nagoja.esperanto>

郵便振替口座 00840-8-40765 「名古屋エスペラントセンター」



愛知サマーセミナー
のようす (4頁に記事)

◀◀ 目次 ▶▶

「エスペラントの日」記念公開講演の報告 (小川博仁)	2
愛知サマーセミナーでエスペラント講座 (山口眞一)	4
La Ideo de Egaleco Demandata (Yamaguti Sin'iti).....	5
活動日誌・活動予定	6
編集後記	6

「エスペラントの日」 記念公開講演の報告

小川 博仁

6月20日に第9回「エスペラントの日」記念公開講演として後藤斉（ひとし）氏の「エスペラント—言語共同体の観点から—」と題する話をオンラインで視聴したので報告する。（以下エスペラントはEと略）

後藤斉氏(1955-)は仙台E会会長で、また本年3月で東北大学大学院文学研究科教授を退官し、現在は同大学名誉教授である。ご専門は言語学 (lingvistiko)、より詳しくは、コーパス言語学、ロマンス語学（日本ロマンス語学会現会長）、E学 (esperantologio ; “Esperantologio / Esperanto Studies”誌の Redakta komitato の一員) だ。

氏は「Eの日」記念公開講演をこれまでに3回（2006/2011/2014）実施した(後二者の要旨は著書『人物でたどるE文化史』で読める)。

それでは講演内容を紹介する。

Eは「ザメンホフ(以下Z)が考案した人工語」と称されることが多いが、この規定はEへの誤解や過小評価になりかねない。他の多くの「人工語」が「単なる言語案」に留まるのとは異なり、この言語を使用する「一定規模の集団」(=言語共同体)が130年以上も持続した実績を有する点にEの比類のない特徴がある。Eの社会性に着目すると、「Zの提唱で成立した国際語」とか「特定の民族に属さない橋渡し言語」ともみなせる。

1887年にZは『国際語』（後に『第一書』と呼ばれる）を刊行する。これは40頁の本文(例文として手紙、『聖書』の一節、ハイネの詩の訳、Zのオリジナルの詩を含む)と約900の対訳語根表からなる小冊子で、Eの言語案はこゝに誕生した。

この読者のグラボフスキ(以下Gと略称)はZを訪ねEでの初の会話を実践した。

1889-1995年にはE雑誌“La esperantisto”がニュルンベルクで発行されたが、その事務作業言語はEであり、チェスや謎々の問題も掲載された。

1904年にはドーバー海峡の両岸で、英・佛両国のe-istojが国際会議を開いた。翌1905年には、フランスのブローニュ・シュル・メールで第1回の世界大会（以下UK）が開催された。以後二度の世界大戦期を除き毎年持ち回りで定例化する。この頃までにEの言語共同体が成立したとみなせる。

Eの言語面の特徴としては、提唱者のZは言語の仕組み全体を独力で細かく規定したりはせず、GをはじめZ以外の人物の言語的な貢献も大きい点が挙げられる。言語規範よりも、言語使用者の実践と慣用とに委ねられたのである。

Eの社会面では、地理的一体性のないE共同体にとり、UKはEの実際使用の場であり、実体験される絶好の機会としての意義が付与された。UK以外にも、書籍や定期刊行物の発行・流通による読者層が存在し、諸団体やシンポジウム、集会、セミナー

一の参加者層も存在したが、これら以外にも人的接触や情報交換を活発にする仕組みが試みられた。

E共同体の特徴を挙げると、国・民族・地域の背景を有せず、地球上に散在する点；母語話者も存在するが、例外的で、成員の大多数は長じてから自らの意思で言語を学習・習得した；成員相互の共通点はあまり多くなく、多様である；語学力や共同体への参加・帰属意識にばらつきが大きい、などの諸点である。

次にE共同体の弱点を見たい。規模は大きくはなく、新規参加者が少ないので、高齢化が進行する；多様性故に使用実態の全体像が把握しづらい；成員の語学力・帰属意識に大差があり、コアな成員と周辺の成員とが乖離する；「世界語」としては英語に太刀打ちできない(が、別の在り方としてなら、存在意義もある)、などである。

一方、E共同体の強みだが、多様性を前提に成立し；多くの成員は国際交流を志向し；また自主性や相互協力精神、ボランティア精神に富む；コンピューターネットワークと親和性があり、ネット時代に即した新しい層が生まれた、などの点がある。

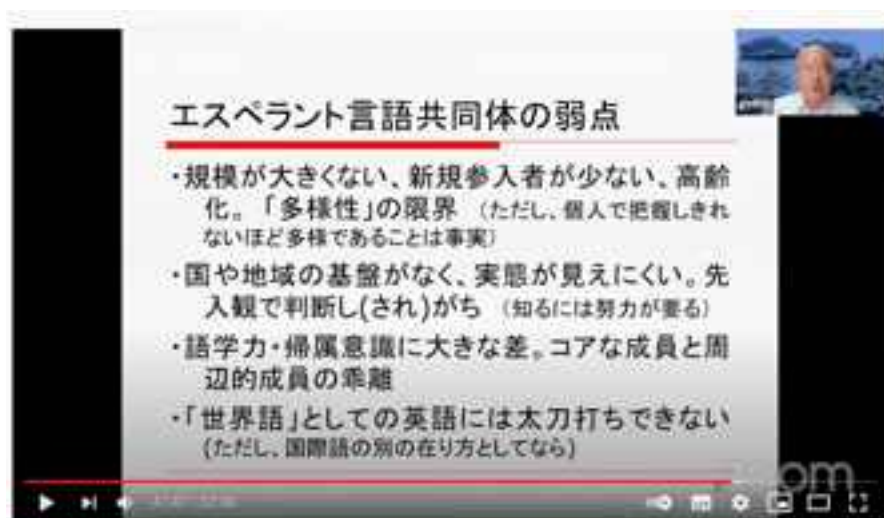
ネット上の使用実態として、後藤氏のウェブサイトから例示された。

最後に、「Eは現在ではe-istoの意思と活動の中に存在して」、「Eを使って行われる言語活動の中にこそ、Eの存在価値がある」と、著書『単語力から総合的な語学力へ』からの引用で締めくくられた。

[2021/07/13]

(編集者より) 講演の録画はYouTubeより視聴できます。

<https://www.youtube.com/watch?v=iBBX2Guleqs>



第9回「エスペラントの日」記念公開講演会 (後藤齊・東北大学名誉教授)

愛知サマーセミナーでエスペラント講座

山口 眞一

「誰でも先生、誰でも生徒」をコンセプトにした愛知サマーセミナー（通称サマセミは）今年で第32回を数えました。昨年はコロナ禍により中止となりましたが、今年は規模を若干縮小しながらの開催となりました。

名古屋エスペラントセンターでは、第29回からひきつづいてエスペラントの講座を出講しています。（それ以前にも、いずれも故人となられた川合隆史さんや竹崎睦子さんが個人で出講していたことがあります）

今回は7月17日と18日の二日間（例年は三日間）、会場は名城大学（ナゴヤドーム前キャンパス）および市邨学園他で開催され、名城大学終身教授でノーベル化学賞受賞者の吉野彰氏を名誉校長に迎え、合計で452の講座となりました。（規模縮小のため、いずれの講座も一回限り）

エスペラントセンターからは「国際語エスペラント」の講座名で出講しました。講師は山口眞一。他にスタッフとして堀田裕彦、永瀬義勝、後藤みわこ、小川博仁。受講生は3人で、うち1人が高校生。内容は従来同様、プレゼンテーションソフトを使って映像や音声も交えて、国際語とはどういうものか、エスペラントは何を目指しているか、エスペラントは実際にどのような言葉か、どう使用されているかについて話していきました。いずれの受講生も「エスペラント」については聞き知っていたようで、また言語や外国語に関心があったようです。最後には質問が続出しましたが、残念ながら撤収の時間となり打ち切らざるを得なくなりました。

受講生からの感想を以下に紹介します。（実行委員会に提出されたものです）

- 「もともと語学に興味があったのでエスペラントの講座に来たが、今までの学習とのつながりがあり興味深かった。」（高校2年）
- 「初めてエスペラントを学びました。興味を持ったので、今後も勉強してみたいと思います。経典の翻訳に興味を持ちました。」（市民）
- 「エスペラント語自体は耳にしていましたが、文法等を勉強したことはまだなかったので興味深かったです。（単語の意味はあてられませんでした）機会があればもっと勉強してみようと思います。」（市民）

«ESEO»

LA IDEO DE EGALCO DEMANDATA

Yamaguti Sin'iti

Ĝis nun mi pensis, ke ĉiuj homoj estas egalaj almenaŭ rilate sian tempon; ĉar ĉiuj homoj havas egale la eblecon de malsaniĝo kaj morto senrilate al sia riĉeco, riĉeco kaj atendata vivdaŭro ne havas rektan proporcion. Iam fakte tiel estis.

Sed nun pro la progreso de kuracado kaj vivoscienco riĉuloj pli longe vivas ol malriĉuloj. Se iu havas sufiĉe da mono, tiu povas ĝui sufiĉan flegadon kaj la plej novan kuracadon, dum malriĉuloj eĉ ne povas viziti hospitalon. En Suda kaj Norda Amerikoj, inter malsamaj rasoj kaj etnoj, kaj laŭ la grado de riĉeco, estiĝas granda diferenco de proporcio de infektiĝintoj kaj mortintoj. La vivo de homoj de kolora raso kaj malriĉa tavolo estas malatentata.

Kiam la nova kronviruso ekfuroris, en Usono okazis la murdo de nigrulo fare de policano. Tuj poste la protesta movado kontraŭ rasa diskriminacio disvastiĝis ne nur en Usono sed en diversaj mondopartoj. Malantaŭ tiu ĉi movado kun la slogano *"Black Lives Matter"* (Gravas la vivoj de nigruloj.) kuŝas la emocio kontraŭanta aliajn diversajn diskriminaciojn kaj koleranta pro grandiganta diferenco inter riĉuloj kaj malriĉuloj. Kelkaj riproĉas violentajn agojn. Sed, Martin Luther King, kiu gvidis la Afrikusonon Civilrajtan Movadon kun pacaj rimedoj de civila malobeo, iam diris, *"Violento estas la lingvo de homoj sen la ebleco esprimi sin."* Kiom ajn multe da fojoj ili apelaciis, diskriminacio daŭras. En la formo de violento elŝprucis doloraj krioj kontraŭ la Prezidento Trump, kiu sugestis mobilizon de la armeo kaj alvokis prenon de pafilo, kaj kontraŭ baza potenco lin subtenanta.

Kaŭze de nov-liberalismo, aŭ *"limigita registaro"*, bazo de komuna vivo disfalis, personiĝo pli kaj pli fortiĝas, kaj progresas la tendenco, kiu aprobas prosperon de fortuloj sur viktimoj de malfortuloj. Japanio ne faras escepton.

Ĉiuj mondaj religioj, inkluzive de Kristanismo, Islamo, kaj Budhismo, celas la mondon sen mizero kaj diskriminacio. *"Egaleco antaŭ Dio"* aŭ *"Budheco"* estas la ideo esprimanta homan egalecon. Ŝakja-munio, naskiĝinte en Hindio, kie diskriminacio pro kasto estas severa, deklaris: *"Homo estas nobla aŭ malnobla ne pro sia deveno. Homo estas nobla aŭ malnobla nur pro sia ago."* Tiel li estis kontraŭ diskriminacio. Sed ĝis nun multaj religianoj aŭ sanktuloj komprenis egalecon nur ideo kaj predikadis obeon al la realeco, dirante *"Ĝi estas neniel ŝanĝebla."* aŭ *"Ĝin vi devas akcepti."* Tiu, kiu asertas, ke ĉiu homo ne povas esti egala al alia homo, ĉar ĉiu vivas sub malsamaj kondiĉoj, ne komprenas la distingon inter *"egaleco"* kaj *"identeco"*. Egaleco en dia regno aŭ paradizo devas esti la bazo por demandi la efektivajn diskriminacion kaj malegalecon en la nuna surtera mondo.

(el *"La Japana Budhano"*, n-ro 403, 2020)

活動日誌（5月から7月）

- 5/5（水）14時から16時 入門講座（教心寺）
5/19（水）14時から16時 入門講座（教心寺）
5/19（水）19時から20時 センター委員会（オンライン）
5/25（火）16時から18時 読書会（オンライン）
6/8（火）14時から16時 入門講座（教心寺）
6/11（金）17時半から19時半 中級講習会
6/16（水）19時から20時半 センター委員会（オンライン）
6/22（火）16時から18時 読書会（オンライン）
6/25（金）17時半から19時半 中級講習会
7/7（水）14時から16時 初級講習会（教心寺）
7/13（火）19時から20時半 センター委員会（オンライン）
7/14（水）18時から19時 事務所整理
7/22（木）14時から16時 初級講習会（教心寺）
7/27（火）16時から18時 読書会（オンライン）

活動予定

- ☆9/18（土）～20（月祝）第108回日本エスペラント大会（完全オンラインで開催）に、名古屋エスペラントセンターとして分科会『新美南吉の会』を主催します。他に、『エスペラントの家見学会（仮称）』に協力する予定です。
☆東海エスペラント大会（詳細未定）

▶編集後記

○世界エスペラント大会（7月18日～25日）は、今年もオンライン開催でした。私もZoomで、“Genra egaleco en budhismo”と題してミニ講演を行いました。いつもより多くの聴衆がいたように思います。お金もかからず、時間も節約できるオンライン大会の利点は今後も目指されていくように思います。来年の日本エスペラント大会はハイブリッド方式だと聞いています。（山口）

<h3>センターの会員（維持員）募集中</h3>

A:月500円 / B:月1,000円 / C:月2,000円 / D:月3,000円

ランクによる会員資格に差はありません。ランク別及び振込月数を明記して郵便振込（口座番号は表紙タイトル下）へお願いします。メールアドレスがあれば、それもあわせてご記入ください。